

九頭竜川をきれいに、誇れる川に

9月10日に、(社)勝山青年会議所主催の「クリーンアップ九頭竜川〜川再清へ〜」が開催され、市内住民や協賛企業などから約350人が集まり、九頭竜川河川敷に放棄されたごみの撤去作業を行いました。

この事業は、「わがまち元気創造事業」の対象として行うもので、福井県クリーンアップ事業の一環にもし、行政と市民と企業が三位一体となって地域の環境保護活動を行うことにより、環境保護の意識を高めていくことを目的としています。

また、九頭竜川を身近に感じてもらいたいとの思いもあって、「勝山が誇る九頭竜川をきれいにすることから始め、次は九頭竜川支流へと活動域が広がっていただければ。」とのことでした。

この日は、勝山橋と保田駅、小舟渡橋周辺の3会場に分かれて行われ、約1時間半の作業で、約1150kgのごみが収集されました。大きなごみでは、タイヤやビデオなどの家電製品が、かなり捨ててありました。

午後から予定していた食用油を使ったキャンドルづくりや九頭竜川の水質検査などは、あいにくの大雨のため中止となりましたが、勝山市漁業協同組合からの提供による鮎の塩焼きや焼肉などの昼食が参加者に振る舞われました。



九頭竜河原をきれいにしようのごみを拾う参加者

懸命に「たすき」をつないで、心をひとつに走る駅伝大会

第52回勝山市内駅伝競走大会が、9月24日に市内一円を巡るコース(14区間:全長35.2km)で開催されました。市内8地区とオープン参加の「チャマゴン楽走会」の計9チームの選手たちが、勝山市役所をスタートとしてたすきをつなぎながら、市内各地区を周回しました。

選手宣誓では、川村佳那さん(北郷小6年)が各地区の団旗に囲まれる中、元気で力強い宣誓をし、選手団から大きな拍手が送られました。

まずまずの天候のもと、沿線の住民や応援に駆けつけた地区のかたや家族らが、たすきをつなごうと額に汗して走る選手に、掛け声や拍手で励ましていました。

成績では、2位とのタイム差を2分近く広げて、荒土地区が昨年に続いて優勝しました。



団旗に囲まれ、元気に選手宣誓をする川村さん

介護予防にイッチョライ

野向公民館では、地域包括支援センターと協力して、今年の夏頃から火曜日と木曜日の週2回「イッチョライダンベル体操」が行われており、野向長命会のかたがたが参加しています。この体操は昨年、福井県立大学の柳田昌彦教授らが考案したもので、お年寄りが寝たきりにならないよう、楽しく、長続きもできる運動として現在その効果などが分析、研究されています。

参加している皆さんは両手に約500gのダンベルを持ち、玄米を入れた手作りの布製ダンベルを持って、イッチョライ節に合わせて腕や足を上げたりして約3分間の運動で汗を流していました。体操を習ってからは練習日だけでなく、家でも自主的に練習を続け、7月の野向夏祭りでも披露したそうです。

山内光治さん(野向町北野津又)は、「踊りを初めてからは調子が良く、よく眠れるようになった。いい機会なので毎日家でも15分から1時間ほど踊っている。」と話してくれました。また、楽しみながら健康維持のできるこの「イッチョライダンベル体操」が勝山に広がればいいとの声も聞かれました。



ダンベル体操で汗を流す野向長命会の皆さん

Remembering Katsuyama



勝山市国際交流員

デビット・ティアーニー

今年の8月はじめに勝山市の友好都市であるアスペン市から7人の青少年がホームステイの交流事業に参加しました。今月はその時来日された高校2年生のスコット君が帰国した後、送ってくれた手紙を皆さんに紹介したいと思います。

今年の夏は僕の人生の中で一番思い出に残る夏でした。勝山市とアスペン市のホームステイプログラムに参加できることになって、地球上で一番行きたいと思っていた国、日本に行くことができました。勝山市では色々な所を見て回り、日本文化の気品ある美しさに魅了されました。毎日新しい発見があったから、毎朝わくわくしながら起きました。

勝山市で一番印象に残った事をひとつだけに絞るのはとても難しいです。越前大仏の大きさにびっくりして言葉が出ませんでした。泊まっていた家が大仏の近くだったので、よく自転車で遊びに行きました。勝山の山奥に潜む平泉寺に行ったこともよく覚えています。平泉寺はとても静かで神秘的でした。いつか日本で住むことができるなら、平

Climbing Victory Mountain

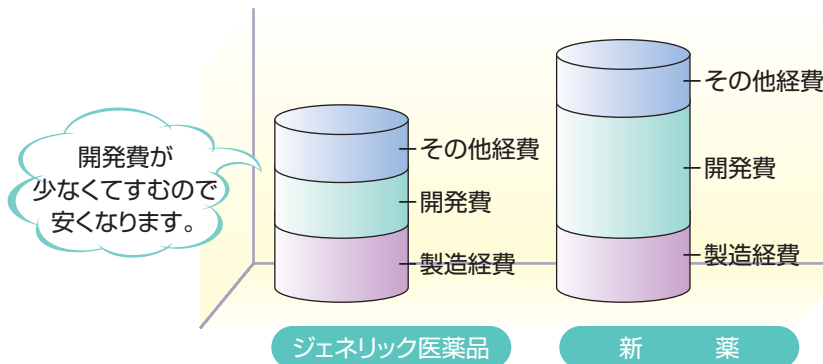
泉寺で住みたいと思います。日本の食べ物もとてもおいしかったです。日本で一番おいしかった食べ物はお好み焼きでした。自分たちで焼いて食べるからすごく食事するのが楽しく感じました。アスペンに帰ってきてから地元のスーパーストアに置いてある日本の食品を買ってみました。本場日本料理とは何かが違いました。あまりおいしくありませんでした。

今回のホームステイで、僕はいろいろな場所や食べ物にいろいろな感動を覚えましたが、それ以上に感激したのは勝山市民のやさしさでした。皆さんとても礼儀正しく親切でした。また今回の事業に携わっていたかたがたは毎日私たちが楽しく過ごせるための最善の努力をしてくれました。こんなにすばらしい経験をしたことはありません。

勝山市の皆さん、また僕を家に泊めてくださったホストファミリーの皆さん、そして毎日通訳してくれたデビット(この手紙もデビットが訳してくれています)、本当にありがとうございました。Thank you!!



国保年金だより



ジェネリック医薬品ってなんでもか?

最近よくジェネリック医薬品という言葉が聞かれますが、これは特許期間(20~25年)が切れた新薬と同じ成分・効果をもつ価格の安い(新薬の2~8割)薬のことです。

今年4月より、ジェネリック医薬品を医師の処方箋により使用することができるようになりました。ただし副作用についてのデータが揃ってない状況にあります。

どうしてジェネリック医薬品を利用できるのか?

利用するには、処方箋に医師の署名・押印が必要となります。まずは、かかりつけの医師や調剤薬局の薬剤師に相談してみてください。

医療費の削減につながるのか?

日本ではまだ利用は進んでいませんが、特許期間が過ぎている薬が全てジェネリック医薬品に替われば、年間で約1兆円の医療費の節約になると考えられています。その分皆さんの負担も軽減され、特に慢性病などで長期治療が必要なかたや、複数の薬を服用しているかたには、家計に大きな効果があると考えられます。

気をつけたいこと!!

ジェネリック医薬品は新薬と全く同じではありません。有効成分が同じでも、他の成分がまだ特許の有効期限内であることから使用されていなかったり、製造企業によりカプセルの質や錠剤化する技術、含まれる添加物などに若干の差があります。

かかりつけ医師と十分ご相談のうえ、ご利用ください。

問 市民課 国保・年金グループ (☎内線2507・2508)